

令和3年度 市野与進こども園 事業計画

令和2年度は 新型コロナウイルス感染症により、大きく教育・保育の内容を変えなければなりません。今まで当たり前に行ってきたことを職員全体で考え直そうと話し合い行事を見直してきました。

園は感染症にかからないための工夫を前提とした教育・保育を考えた時、子どもたちに免疫力つけることが大切であると考え、令和3年度の最大のテーマは「子どもの免疫力を高め育てる」とします。

令和2年度に実施してきた「発達に合わせた環境作り」(運動機能の育成)を基本にしなが、さらに一歩進めた免疫力を高めるための環境づくりを進めていきます。「毎日体を動かして遊ぶ」(運動)、「なんでも食べる子」(食事)、「良質な睡眠」(睡眠)、「何でもやりたい」(やる気と笑顔)という内容です。そしてこれは近年市野与進こども園が目指し、実施している教育・保育を再確認するものでもあります。

このために、園舎前のテラスから裸足で築山に連動させ、園児たちが遊びながら体の機能を育てることができる遊具を実現させたいと考えます。現在ある乳児用の遊具は耐用年数が切れ、遊具点検で取替時期であるとの判定をされました。遊具はただあればよいのではなく子どもの体の育つ部分を見極め、育てることを目的とした教育・保育と一体化できる遊具でなければならぬと考えています。

また これを実施することにより「保育の質の向上」につながっていくこととなります。

令和3年度 定員及び4月現在在園児数

年 齢	0歳児	1歳児	2歳児	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合 計
令和3年度 1号認定数	20人	21人	34人		35人 3人	35人 3人	35人 3人	180人 11人
募集人数 (2・3号) (1号)	(9人)	(6人)	(1人)	(2人)	(3人)	1人 (3人)	0人 (3人)	17人 (11人)
令和3年度 在園児数 (1号認定)	11人	26人	29人		32人 (7人)	33人 (3人)	31人	162人 (10人)

クラス編成 (3歳未満児は月齢)

(4月1日現在)

クラス名	こもも組	もも組	みかん組	れもん組	あか組	あお組	しろ組	合 計
歳児別 園 児	0歳児-11 1歳児-4	1歳児-15	1歳児-7 2歳児-13	2歳児-16	3歳-25 (1号7人)	4歳児-30 (1号3人)	5歳児-31	162 (1号10人)
組人数	15	15	20	16	32	33	31	162
職員数	7	3	4	3	3	3	2	26

職員数

(4月1日現在)

	園 長	教 頭	主幹保 育教諭	保育 教諭	パート保 育教諭	保育 補助	栄養士	調理員	事務員	用務員	合 計
正規 (育児休業)	1	1	2	22 (2)			3	1	1		31
非常勤 (育児休業)				5 (1)	4 (1)	2		1		1	13

<本年度のテーマ> 「子どもの免疫力を高め育てる」「子どもの発達に沿った環境作り」

<重点目標及び施策>

- ① ドキュメンテーション保育の実施「教育・保育」「保育教諭」の質の向上を目指す。
- ② 働き方改革の継続。働きやすい職場環境づくり。(人材確保と人材育成)
- ③ 親支援の充実と、園の特性を活かした子育て支援の実施。(保護者・地域貢献)

事業内容

法人の基本方針	概要	内容
<p>1. 保育サービスの質の向上</p>	<p>●認定こども園教育・保育要領に沿った保育の実践</p> <p>●国・市の方針等の環境変化に応じた国の経営</p> <p>●行政に向けたタイムリーな情報発信</p> <p>●保育環境の整備</p>	<p>【こども園のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな体験を通し何にでも挑戦する子ども ○人と関わる中で素直で優しい心を持つ子ども <p>【大切にしている育ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人との関わり ○自分の思いを言葉にする ○集団生活や遊びのルールを守る ○相手を思う気持ちを育てる ○基本的生活習慣の確立 <p>【重点目標 ①】</p> <p>ドキュメンテーション保育 「教育・保育」「保育教諭」の質の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育・保育の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭は常に子どもと一緒に遊びこむ。 (遊びが学び) ・保育者主導の「させる」保育から、子ども自らが「やってみよう」と思える環境作り。 (子どもファーストの保育) ・「研究保育」の継続→管理者以外の職員も評価へ参加する。 (評価側にまわることで自身の保育への見直しに繋がる) ・キャリアアップ研修の内容を保育にどう結びつけていくか。保育の向上に活かせるような体制作り。 (R. 2年度の課題の継続) <p>→研修参加職員は報告のみではなく、内容をどう保育に繋げていくかを皆で考えていく。 R. 2年度から実施している「保育記録の書式の見直し継続」(乳児・幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「勉強会」の継続(乳児・幼児) <p>→自己評価ガイドブックを活用しながら、組の1日の保育の振り返りと職員自身が子ども一人ひとりの育ちを読みとる力を育てる。 (写真から読み取る子どもの育ち)</p> <p>※「保育ドキュメンテーション」とは、日頃の保育の中で子ども達が遊びや生活を通じて「どのように育っているのか」「何を学んでいるのか」を保護者に伝えることを意図として作成されたもの。ドキュメンテーションを作成する過程で子どもの対する「観察力」が高まり、記録を見ながら実践を振り返ることでどのようにすべきかを保育教諭自身が考えられるようになる。</p> <p>★職員一人ひとりが…</p> <p style="text-align: center;">「子どもの育ちを読みとる力」がつけば ↓ 「記録を書く力」となり ↓ 「子どもに沿った環境作り」「書類の簡素化」へと繋がり ↓ 保育(保育教諭)の質の向上へと繋がっていく</p>

- ・園内研修テーマ：「子どもの発達に沿った環境作り」
- ・給食の質の向上
給食テーマ：「美味しい給食（献立）作り」
「免疫力作る食物の取り込み」
- ① 給食会議の在り方を見直す。
→量や食べ具合の話ではなく、「美味しい献立」にするにはどうしたらよいかの話し合い。（継続）
- ②園児との関わりを増やすための取り組み。
→「出前調理」の実施。
子どもたちがクッキングをする際、給食職員も参加する。またクッキングの内容も、給食室の専門性を活かした内容や方法とする。
- ・保育に繋がる自己評価の実施
→「他者評価」を取り入れたことで、自分自身の保育の振り返りにも繋がる。
- 保育中の安全管理体制づくり
- ・子どもの発達に沿った環境作り。
※今までの環境作りは、室内装飾や子どもが主体的に遊ぶ為のものを中心として考えていたが、今私たちがすべきことは重大事故発生要因の一つである「運動機能を高める」ための環境作りが最優先である。
- ・「事故報告」「ヒヤリハット」を通じて、子どもの育ち・職員自身の行動を分析。（発達過程の周知）
→「ヒヤリハット」はあくまでも子ども一人ひとりの育ちを見る・確認する為である。
- ・危機管理マニュアルの周知と実施訓練。（職員研修）
→防犯訓練（警察署）・救急法（消防署）
- ・保育環境の充実…現園庭の芝生化・遊具の見直し
(継続)
- 節電対策（強化・工夫）
- ・ゴミの省力化
- ・「自分のポケットにハンカチを」運動
→職員・3歳以上児
- ・水の出しっぱなし（漏水）電気の付けっぱなしを常に確認する
- ・家庭での空き缶回収
- 保護者支援の充実化
- ・保育参加の実施
- ・「親子ふれあい遊び」の継続
- ・ドキュメンテーション保育を中心とした保護者との「1分間コミュニケーション」
- ・子どもの成長が感じられる「保育の見える化」の工夫（懇談会・行事・HP・クラスだより・園内掲示板 等）
- 家庭を巻き込んだ食育実践（食育計画に沿った実践）
- ・食育テーマ
「家庭と一緒に楽しくマナーを身に付けよう」

●環境を守る取り組み

●保護者への積極的な子育て支援

		「元気な体分かる子」 ～健康のバロメーター「うんち」の取り組み～
2. 職員の確保・育成	<p>●職員が働きやすい環境作り、待遇の改善</p> <p>●採用関係等対外的にタイムリーな情報発信</p> <p>●計画的な研修</p>	<p>【重点目標 ②】 働き方改革の継続。働きやすい職場環境づくり。 (人材確保と育成)</p> <p>○子育てしやすい職場環境作り ★安心して働くことができる学童保育実施に向けた取り組み</p> <p>○業務の効率化を図る（職員一人ひとりの意識改革）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各書類（書式）の見直し ・保育補助の有効活用 →クラスの枠を外し園全体で活用していくことで、園全体の効率化と残業削減へと繋がる。 ・休憩時間の充実（45分実現化に向けて） <p>① 各クラスの流れ、休憩開始時間を再確認。 ② 各会議や話し合いを把握する為に、スケジュール化する。（全体・クラス・係・担当）</p> <p>③ 家に仕事を持ち帰らない意識を徹底する (意識を変えるための工夫をどうするか)</p> <p>★休憩時間を再検討するには、職員一人ひとりの「意識改革」が最も必要とされる。</p> <p><u>人材確保</u></p> <p>○就職希望者に向けた「教育・保育」内容が見える園作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間園長会催しのフリーツアー・合同就職説明会の有効活用 ・実習生の積極的受入れ ・内容が伝わるHPづくり ・採用者に分かりやすい求人情報の提供 ・園見学の実施 ・行事ボランティアの募集 <p><u>人材育成</u></p> <p>○「選ばれるこども園」をめざした人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（自己分析）の実施 ・計画的なキャリアアップ研修 ・「研究保育」「勉強会」の実施。 ・「園内研修」「食育研修」の充実 ・職員間での情報共有
3. 地域への貢献	<p>●「地域における公益的な取組」を含む地域の貢献活動の充実</p> <p>●地域に対するタイムリーな情報発信</p>	<p>【重点目標 ③】 保護者支援の充実と、園の特性を活かした子育て支援の実施。（地域貢献）</p> <p>○地域を支援するため「学童保育」の実現化を検討。 (今後の課題) →保護者や地域、職員からの強い要望を受け、学童保育の実現に向けた計画の策定。</p> <p>○子育て支援（親子ひろば）の充実化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ベビーマッサージ」「マタニティーカフェ」の実施 →助産師への育児相談 ・「親子ふれあい遊び」の充実化（1～2歳対象）

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育参加（体験）への呼びかけ →園の様子を見たり共に体験することで、「子育て」や「入園」の参考にしよう。 ・ 「離乳食教室（講座）」の実施 ・ 手作り給食（離乳食）の試食会 <p>○地域交流の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いかまい会」への参加 ※「いかまい会」とは、地域の老人会主催の集い ・ 地域ボランティアの活用（食育・コーラス 等） ・ 地域防災への職員参加 ・ 近隣の「幼稚園・こども園・小学校」との継続的交流
4. 法人、事業基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●経営の把握と無駄の排除 ●生産性の向上のために積極的に ICT を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★予算は現状を想定しながらバランスよく考え立案をし、健全なこども園運営を行う ★事前調査をしっかりと行い、計画的に予算を編成する ★職員、責任者には運営状況を丁寧に説明する ★区の情報を確認しながら、環境の変化に対応 ★園長会、近隣園との情報交換及び情報共有